

「上閉伊の森」の整備を通じた林内作業の学び

八幡平市内にある「岩手県県民の森」には、自治体の農林担当者や森林組合などの林業従事者が、地域ごとに共同で森林整備を行うための、小規模な造林地が設けられています。その中の一つ「上閉伊の森」において、当署をはじめ岩手県沿岸広域振興局農林部、大槌町・釜石市の農林担当者、釜石地方森林組合などが協力して、約0.3haの造林地の保育作業を実施しており、今年度は8月25日に下刈作業を実施しました。

当日は残暑の厳しい中、当署職員3名をはじめとする約20名が、汗水を流しながら下刈作業に励みました。毎年欠かさず作業を実施しているだけあり、雑草木自体はそれほど生い茂っているわけではありませんでしたが、日頃はパソコンに向かっての事務作業が中心の私にとっては、十数分ほどで休憩が欲しくなりました。対して、熟練の先輩職員や森林組合の方達は、慣れた手つきで作業を効率よく進めており、彼らの通った道にはほとんど草が残っていないような状況です。

彼らの作業の様子を観察すると、私との大きな違いは姿勢にあるということがわかりました。鎌に重心を取られへっぴり腰な私に対し、熟練者の方々は、膝に力を入れた前傾姿勢で鎌を自身の体の一部のように扱いこなし、次々に目の前の草を刈っていく姿は見事です。また、一心不乱に鎌を振っている私に対し、熟練者の方々は直線的に作業を進めることで、他の者が作業しやすいように、うまく連携をとっていたことも印象的です。これらの気づきを活かしながら、作業を進めると、あっという間に2時間がたち、最後には林内が見渡せるほどになり、作業が終了となりました。

作業中は各々が黙々と自身の作業に集中していましたが、作業が終わるとそれぞれ充実した表情を浮かべ、日頃の仕事について談笑しており、短くはありましたが、非常に有意義な時間を過ごせました。

今回の活動が、私にとっては初めての「上閉伊の森」整備への参加となりましたが、森林整備事業を直営で行うのではなく、多くは発注するようになり、森林管理署職員としての業務形態が変化してゆく昨今において、実際に林内で熟練者の方々と作業を行うことは、多くの気づきを得られる貴重な場でありました。今後も同様の活動に積極的に参加することで、より森林・林業への理解を深めていきたいと思えます。



(報告：三陸中部森林管理署 経営・森林育成担当 大脇 航平)